

【宇治田原町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末やクラウドサービスの活用を前提とした通信ネットワークなどのICT環境を整備することで、児童生徒が自ら課題を発見し、主体的・協働的に探究し、学びの成果を表現しながら実践に生かしている力を育む特色ある教育の充実を目指します。そのため、学習支援ソフト等の学習履歴を活用し、児童生徒の特性や学習到達度に応じた学習機会の提供や、児童生徒自身が最適な学習を調整するための支援を行います。また、授業支援ソフトを活用し、他者との協働作業を通じて、必要な資質・能力を育成する協働的な学びの実現を目指します。

2. GIGA第1期の総括

令和2年度に1人1台端末整備とネットワーク環境整備を行い、令和3年度からの情報活用体制が整いました。令和3年度には電子黒板を更新、令和4年度に学習支援ソフトウェア導入、その他ICT支援を月2回程度配置し、教職員の負担軽減及びAIドリルによる個別最適な学びの実現に努めました。

ICTの活用については、研修や、各学校においてICT活用指導力を有する教職員が牽引することにより、積極的な活用が進みました。しかしながら、教職員のICT活用指導力における個人差が解消できていないため、引き続き研修の実施や授業実践例の提示により、教職員のICT活用指導力の平準化を図ります。

(1) 経緯と現状

令和2年度に1人1台端末整備とネットワーク環境整備を行い、令和3年度からの情報活用体制が整いました。この5年間で学習用端末を接続するためのICT環境の整備を進めるとともに、教育現場での活用を推進してきました。

(2) ICT施策の実施内容

教育支援設備の導入

電子黒板（大型ディスプレイ）を整備し、ICT支援員を3小中学校で1名（各校月2回）配置することで、授業の質の向上に努めてきました。

学習活動の充実

整備したICT環境を活用することで、児童生徒が情報収集、共同編集、意見共有、ICT端末を用いた発表など、さまざまな学習活動を行えるようになりました。

(3) 課題

・教職員間のICT活用のばらつき

授業や校務でのICT活用頻度に学校間、教職員間で差があることが課題となっています。

・個別最適な学びの実現

教職員と児童生徒、児童生徒同士のやりとりでICTを積極的に活用し、協働的な学びの充実が課題となっています。

・学びの保証

不登校や特別支援、日本語指導など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援でのICT活用が課

題となっています。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の日常的な利活用を継続するために、令和7年度に端末の入れ替え及び予備機の整備を行う。1人1台端末環境を引き続き維持し、児童生徒の学びを止めることなく学習できる環境の構築に努め、以下を踏まえた活用を推進します。

(1) 1人1台端末の積極的活用

ICT活用に係る研修を実施し、教職員がICTを活用することによるメリットを享受できるよう促す。また、効率的な活用についての情報共有を図り、ICT活用のばらつきをなくす。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

児童生徒が「自分で調べる場面」「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士や教職員とやりとりする場面」で積極的に1人1台端末を活用できるような環境づくりを行う。

(3) 学びの保証

1人1台端末を活用し、オンライン授業の実施等により学びの幅を広げ、様々な状況の児童生徒に学習機会を確保していく。また、不登校や特別支援等を要する児童生徒に対し、実態に応じて端末を活用した支援を検討する。